

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月31日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2010～2011

課題番号：22820014

研究課題名（和文） 後期ソ連～現代ロシアの文化記号論における表象の「リアリティ」論とその社会的背景

研究課題名（英文） Argument on the “reality” of representation in the semiotics of culture in context of Late Soviet and contemporary Russian society

研究代表者

乗松亨平（NORIMATSU KYOHEI）

東京大学・人文社会系研究科・助教

研究者番号：40588711

研究成果の概要（和文）：ソ連記号論の代表者ユーリー・ロトマンの理論とその影響について、後期ソ連～現代ロシアの社会・文化状況との関わりをとおして検討した。ロシアでは伝統的に、現実の言語的表象が現実以上に重視され、ソ連においてこの傾向が頂点に達したとされる。ロシア文化のこうした「言語中心主義」的側面を、ロシアの現代思想がどのように分析・批判してきたかを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In this research, I analyzed the theory and influence of Yury Lotman, the leader of Soviet semiotics, in context of Late Soviet and contemporary Russian society and culture. It is said that in Russia the linguistic representation of reality has been regarded more important than reality itself, and the Soviet era saw the peak of this tradition. I clarified how this “language centrism” of Russian culture had been argued by contemporary Russian critics.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	810,000	243,000	1,053,000
2011年度	810,000	243,000	1,053,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,620,000	486,000	2,106,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：ヨーロッパ文学（英文学を除く）

キーワード：ロシア文化、記号論、ナショナリズム

1. 研究開始当初の背景

(1) ペレストロイカ以降、ロシア・ソヴィエト文化史の見直しが進むなかで、「言語中心主義」「文学中心主義」がその特徴として指摘されるようになった。ロシアでは伝統的に、現実の言語的表象が現実以上に重視され、とりわけソヴィエトの「社会主義リアリズム」理論においては、公式イデオロギーの命じる理想の現実像が、すでに存在する現実として

描かれるという転倒に達したとされる。

(2) 後期ソ連の人文学では、西側に比して、構造主義・記号論の勢力が長く保持された。研究対象に言語的構造を見出す構造主義・記号論は、ソヴィエトの「言語中心主義」と親和性が高かったのだと考えられる。記号論は、ペレストロイカ以降の「言語中心主義」批判の基礎をなすと同時に、それ自体、「言語中心主義」の体現であるとして、批判対象とも

なった。

(3) このように、ソ連記号論は、後期ソ連の社会・文化と密接な関係があったと思われるが、その関係が適切に論じられてきたとはいえない。ソ連記号論に関する研究は、西側の記号論・構造主義と比較しつつ、その理論的可能性を分析する内在的アプローチと、ソ連の社会状況における記号論グループの活動に注目し、特にそのエリート主義的な非政治的態度を批判する外在的アプローチとに分裂している。ソ連記号論の理論的内容そのものを、外在的文脈との関わりから検討することが必要である。

2. 研究の目的

(1) 言語的表象のリアリティに過剰な意義が付与されるロシア・ソ連文化の「言語中心主義」をソ連記号論の背景と捉え、ソ連記号論の理論的内容と、後期ソ連の社会状況との関わりを明らかにする。特に、記号論グループのリーダーであったユーリー・ロトマン(1922-93)のテキストと、それがペレストロイカ以降の文化批評に与えた影響を検討する。

(2) 記号論は、狭い意味での文化・芸術のみに関わるのではない。記号論の影響下に、ロシア・ソ連文化の「言語中心主義」を批判したペレストロイカ以降の文化批評は、ロシア・ソ連文化が西側の文化とは異なる特殊なものだという前提に立っている。このようなロシア特殊論は、ソ連崩壊後、共産主義のイデオロギーに代わって、民族主義的なアイデンティティの力が増大したこととも関係している。プーチン政権の成立以降、ロシア社会の保守化が進むとともに、文化批評におけるロシア特殊論も、批判的なものから肯定的なものへとトーンが変わっていく。ロトマンとその影響を受けたテキストが、ロシア・ナショナリズムとどのように関わっているかを明らかにする。

3. 研究の方法

(1) ロトマンの演劇的文化論とその影響の検討。ロトマンは1970年代から、ロシア・ロマン主義文化における「演劇性」について精力的に論じた。ロマン主義の時代には、芸術テキストが台本のごとく、人々の実人生における振舞いを規定した、というのである。記号が現実を表象するのではなく、現実が記号にしたがってつくられる、というこの「生の構築」論は強い影響力をもち、ロマン主義にとどまらず、ロシア史のさまざまな時代、とりわけ革命運動に、同様の傾向を指摘する研

究が相次いだ。記号と現実の関係における記号の先行性という着想は、近年の社会主義リアリズム研究にも引き継がれ、ソ連における文化的記号は現実と遊離したシミュラクルであった、というソ連=ポストモダン論も唱えられた。このように、「生の構築」現象は、ロシア・ソ連史の全体に見出されるに至り、現代のロシア人文学におけるロシア特殊論とも結びついている。

① ロトマンの演劇的文化論は、後期ソ連社会の隠喩として解釈することができる。記号にしたがって人々の実人生が構築される社会で、プーシキンやカラムジンといったロマン主義文学者が、既存の記号にただ従属するのではなく、それを主体的に操作しようとしたさまをロトマンは描き出す。近年の後期ソ連社会論を参照しつつ、ソ連社会に生きた知識人の倫理として「生の構築」を理解することの妥当性を検討する。

② 「生の構築」論は、シミュラクルを中心としたポストモダン論と、ロシア特殊論、さらにロシア・ナショナリズムとの結びつきを導いた。1990年代に流行したロシア・ポストモダン論にロトマンが与えた影響と、その保守化の経緯を分析する。

(2) ロトマンの「ロシア=二項的文化」論とその影響の検討。芸術作品は、単一ではなく複数の記号体系から構成される、とロトマンは一貫して主張した。この議論は、ロトマンの文化史観とも関連している。彼によれば、ロシア文化史は、二つの記号体系の衝突の連続であり、新しい体系が古い体系を駆逐することのくりかえしであった。それに対して西欧の文化史は、三つの体系の関係で成り立っており、古い体系の記憶が新しい体系に残されるという。ロトマンがB・ウスペンスキーとの共著論文で1970年代から展開し、ロシアのナショナル・アイデンティティに明快な図式を与えるものとして強い影響力をもったこの見方の展開を、ロトマンとその後の文化批評のテキストに検討する。

4. 研究成果

(1) 「3」で挙げた3点についてそれぞれ、論文を国内主要学術誌に発表した。これによって、日本では専門家のあいだでも断片的にしか受容されてこなかった、記号論以降のロシアの文化批評について、一貫したパースペクティブのもと理解する基礎を築くことができたと考えている。今後、これを発展させ、後期ソ連以降のロシアの文化批評の流れについて、まとまった成果を発表したい。また、これらの論文を受けて、一般むけ図書にロト

マンに関する項目を執筆した。

(2) 国際的な成果発表としては、ロトマンの研究拠点であったエストニアのタルトゥ大学で開催された、ロトマン生誕 90 年記念学会に参加したほか、東京大学で開かれた国際研究集会に、ロシア・ポストモダン批評の代表者である M・リポヴェツキーを招き、ロシア・ポストモダン論にロトマンが与えた影響について発表した。

(3) 本研究課題の文化・社会的背景となっている、「言語中心主義」とナショナリズムの結びつきは、ポスト・ソヴィエトのロシアにおける大きな問題である。本研究の成果を受け、記号論や文化批評にとどまらず、現代ロシアの文化・社会の広範な現象を、同様の観点から分析することを、今後の研究課題としたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

①乗松亨平、ユーリー・ロトマンの文化記号論における「ロシア」の単数性と複数性、ロシア語ロシア文学研究、日本ロシア文学会、査読有、第 43 号、2011、35-42
<http://yaar.jpn.org/robun/bulletin43/bulletin43>

②乗松亨平、後期ソヴィエトにおける「生の構築」：ユーリー・ロトマンの演劇的文化論の社会史的考察、スラヴ研究、北海道大学スラヴ研究センター、査読有、第 59 号、2012、1-23
<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/publicatn/slavic-studies/59/01Norimatsu.pdf>

③乗松亨平、ナショナル・アイデンティティとしての「爆発」：ロシア・ポストモダン論のなかのユーリー・ロトマン、SLAVISTIKA、東京大学大学院人文社会系研究科スラヴ語スラヴ文学研究室、査読有、第 28 号、2013、203-222
<http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/dspace/bitstream/2261/54253/1/SLA0280013.pdf>

[学会発表] (計 3 件)

①乗松亨平、ユーリー・ロトマンの記号論における「ロシア・ソヴィエト」、日本ロシア文学会全国大会、2010 年 11 月 6 日、熊本学園大学

②Kyohei Norimatsu, Place of Polyglotism in Bakhtin, Lotman, and the Russian Post-Semiotic Schools, International Congress "Cultural Polyglotism", Feb. 29, 2012, University of Tartu (Estonia)

③ Kyohei Norimatsu, "Explosion" as National Identity: The Influence of Jury Lotman on Russian Postmodernist Theory, 国際研究集会「グローバル時代の世界文学と日本文学：新たなカノンを求めて」、2013 年 3 月 4 日、東京大学

[図書] (計 2 件)

①乗松亨平、他、東洋書店、ロシア文化の方舟：ソ連崩壊から二〇年、2011、283-290

②乗松亨平、他、明石書店、エストニアを知るための 59 章、2012、233-236

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等
特になし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

乗松亨平 (NORIMATSU KYOHEI)
東京大学・人文社会系研究科・助教
研究者番号：40588711

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：